

---

報告者名	菊地 暁	被調査者生年	1953年(男)
調査者名	菊地 暁	被調査者属性	宝国寺住職
補助調査者	なし		

---

#### 宝国寺の由緒

このお寺は宗派が変わったり、開山が何人もいたり、正確にはわからないこともいろいろある。天童家が山形から八幡に入ってきた時にその菩提寺となり、天台宗から臨済宗(妙心寺派)に改宗する。寺号も林松寺から今の宝国寺に変更される。寺号変更の際の文書が残っている。

話者は昭和28年生まれ、高校まで地元で過ごし、大学は京都の花園大学に進学。卒業後は京都の妙心寺、松島の瑞巖寺に勤め、昭和53年か54年に宝国寺に戻った。

#### 天童家との関係

去年(2012年)で天童家がこちらに来て400年になる。前当主の七回忌、おばあさんの年忌にもあたっていたので、法要を行った。K家、T家など、天童家の家臣にあたる家の方々も参加した。辺りの人たちはびっくりした様子だった。

天童家の当主が亡くなると、遺品が宝国寺に収められるのが慣例だった。移入してきた初代の当主が亡くなった時の掛け軸、肖像画などが残されている。前当主が亡くなった時も、何か寺に収められると思っていたのだが、一周忌が終わっても連絡がないので、しびれを切らせて尋ねてみると、市に寄付したということだった。

#### 檀家組織

この辺りを歩けば全部ウチの檀家さん。檀家は全部で500軒。仙台市内で50軒。県内も遠いところで南は丸森、北は野蒜にもいる。このあたりから移転した人が多い。

寺には「縁有会」という若い人を中心とした集まりがある。本山は「青年部」を作るようにいうのだが、そうすると宗派が限られてしまうので、「縁の有る人の会」にしている。八幡の人が中心。年齢制限はないが、三役は若い人が務める。消防団も縁有会とメンバーがほぼ重なり、震災時にも活躍した。

#### 年中行事

寺の年中行事としては、3月のお彼岸、5月5日の御回向、8月のお盆、8月24日の地藏さんのお祭り、燈籠流し、9月のお彼岸、10月末か11月初の戦没者慰霊祭などがある。

御回向は4月29日の不磷寺から始まり、日ごとに寺を回って、5月5日の宝国寺で終わる。

燈籠流しは、一度途絶えたものを、2000年ぐらいに復活させた。若い人たちが地藏盆に屋台を出すようになった。燈籠は砂押川の八幡保育所のあたりで流し、行事を終えると当日のうちに回収する。

#### 葬儀と墓地

昔は葬儀で旗を立てたり、穴を掘ったりするなどの仕事を契約講が担い、契約講は葬儀に欠かせなかった。その後、土葬から火葬へと変わり、また、昭和40~50年頃から葬儀社が入ってくるようになって、契約講はなくなるとなくなり、廃れていった。天童家の契約講も前当主の代でなくなった。

宝国寺の墓地も昔は土葬だった。墓石も今のように大きなものではなく、小さな石を一人に1つ立てるようにしていた。昭和30年代、自分が小さい頃に墓地整理があって、土葬されたご遺体を掘り出して火葬にして墓に入れ直した。一緒に埋葬されていた古銭なども出てきて、とても面白かった。末の松山の上のほうでガソリンをかけて火葬にしたので、煙が山王のほうまで届き、市に苦情がいった。

### 被災とその後

寺に関しては被災の前後で変化はない。本堂は道路よりかなり高くなっており、津波は階段の下で止まった。

寺の裏の末の松山は避難場所になった。おじいさん、おばあさんからの言い伝えになっており、三陸沖地震の時にも避難場所になった（2011年4月7日の大きな余震や2012年12月の津波警報の際にも避難場所になった。なお、末の松山の松は以前はさらに雄大だったのだが、記憶にあるだけでも、雷、風、大雪と3回被害にあっている。雷の時は、倒れた松が本堂に突き刺さった）。地震の直後、避難の車でいっぱいになり、整理に追われた。自分の車を避難する前に津波が来た。

家を流されて逃げてきた人も多かったので、檀家であるとを否とを問わず、風雨をしのぐ場所として寺を提供した。生後数日の赤ん坊、生後3か月の赤ん坊もいた。公的な避難所ではないので、物資の配給もなく、飲み食いには苦労した。とはいえ、水のストックも若干あり、ガスも使えた。また、いただきものの乾麺などがたくさんあったので、それも提供した。4月25日に最後の避難者が寺を出た。その後、御礼に来る人もいる。

今回の地震では、檀家では10軒、20名ほどが犠牲者となった。一周忌の法要は合同でなく、家ごとに行った。このほか、身元不明の遺骨や引き受け手のない遺骨を、お預かりしている。市の生活環境課から打診があり、将来的には納骨堂に一括することを条件にお引き受けした。5月や9月の法要に合わせて物故者慰霊を行っている。

宝国寺は50年ほど前から野蒜で幼稚園を運営していたのだが、その幼稚園のほうは甚大な被害にあった。現在、再建に向けて奔走している。



写真1 被災した野蒜の幼稚園から発見された棟札をもつ住職。